



すっかり秋に季節が変わり、木々の色や落ち葉から冬を感じる季節となりました。子どもたちもカーディガンやコートを着て登園し、身支度が少し難しくなりましたが、自分でできる喜びを感じながら毎日頑張っています。幼稚園では手洗い、うがいをし、自分の体は自分で守る意識付けをしています。ご家庭でもお声掛けをお願いいたします。

先日うめ組で世話をしていたザリガニに、赤ちゃんが生まれました。お母さんザリガニは、しっぽを丸めてたまごを大切に抱えて守っていました。ある日、水槽の中に小さな動くものがありました。よく見ると赤ちゃんでした。とっても小さいけれどお母さんと同じ形をして、元気に動き回っています。押し合いながら見たり、大きな声を出すとびっくりするよと話しました。そして「お父さんとお母さんになってね」と話すと、小さい声で「おにいちゃんとおねえちゃんだよ」と答えてくれました。とても頼もしく感じました。知らないうちに確実に成長している子どもたち、そんな小さな素敵な言葉を聞き逃さないようにしたいですね。

12 月になれば日本中がクリスマス一色になります。カトリック幼稚園でしか感じられないクリスマスを、子どもたちと迎えられるように毎日を大切に過ごしていきたいと思っています。

うめ組 中溝 直子

園庭の木々の葉っぱも落ち、段々と風が冷たい季節になってきました。子どもたちの中には、「今日も葉っぱいっぱいかな〜」と言いながら、熊手で落ち葉をかき集め、きれいにしてくれる子どももいます。

先日ゆり組のザリガニが亡くなりました。前にいたザリガニが沢山産んだ赤ちゃんの中で唯一元気に育った子の死に、給食の時間だということも忘れ皆が水槽に集まり「かわいそうに〜」「なんでしんだんやろう」「おはかつくろ〜」…と各々がとても悲しそうな眼をしていました。そこで園庭のマリア様の近くにお墓を作りお祈りをしました。小さな生き物の命の終わりを知り、寂しい気持ちの子どもたちですが、命の大切さを知る機会になったと思います。また、数日たった今も手を合わせてくれる子どもがいることを嬉しく思います。

絵本や歌、お祈りを通してイエス様の誕生であるクリスマスの準備をしている子どもたちですが、先日年長とページントの練習をしました。微動だにせず緊張感をもって大きな声でセリフを言い歌を歌う年長児の姿は、年中の子どもたちに良い刺激になったようです。部屋で鍵盤ハーモニカやセリフの練習をする際、その時の年長児の姿を思い出し、少し取り組む姿勢が変わったように思います。

ゆり組 阪口 克美



☆秋の製作☆

公園で葉っぱや木の実をたくさん自分の袋に拾ってきて、どんなものを作ろうかと葉っぱとにらめっこ。最初から作るものを考えていた子ども。作っているうちにいろいろな物に見え、タイトルがどんどん変わっていく子ども、思いは様々でしたが、かわいい作品が出来上がりました。初めてのポンドでしたが筆や割りばし、爪楊枝で上手につけることができました。



☆お仕事☆

～生活の分野～<毛糸クルクル>

一定方向に毛糸をくるくると巻いていく単純なお仕事ですが、力加減によって芯が引張られていき、いびつな形になります。手の微妙な動きと力の調整が必要です。いろいろなお仕事を体験することで、微妙な動きの調整ができるようになっていきます。



～感覚の分野～<構成三角形>

同じ形の三角形を合わせると四角になることを知ります。三角形の形により四角形の形も変化していきます。数学的な考えの準備に繋がります。



☆待降節☆

クラスに馬小屋を置き、クリスマスを心待ちにする待降節。いつイエス様が来てくださっても大丈夫!! 優しいお心でその日を待っています。



☆霞ヶ丘公園☆

幼稚園のお庭と思えるような霞ヶ丘公園に秋を見つけに行きました。桜の葉が黄色や赤に色づきじゅうたんのようになっていました。桜餅のようないい匂いもしていました。どんぐりもたくさん落ちていて、遊んでいる時にも頭の上に落ちるくらいで「トトロのもりみたい」と話していました。秋は色の視覚、匂いの嗅覚を感じることでできる季節です。公園でたくさんの落ち葉と木の実を拾ってきて、製作をしました。

